

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理念の見直しを行い、職員や利用者、御家族の見える場所に掲示した。 ・入居時のパンフレットにも記入した。	○ ・今後も全スタッフが理念に向けて取組んでいけるように努力していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	・日々のケアの中で理念が生かせる様にケアプランにも入れている。	○ ・理念が生かせるようなケアができるように取組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取組んでいる	・地域の方のボランティア訪問時等にも話している。 ・家族の訪問時にも説明を行っている。	○ ・地域の方々にも、グループホームの理解してもらえよう自ら地域との交流に足を向けていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩時や買物などに出かけ、近隣の方達と挨拶を交わしたり、話しをしたりしている。知り合いの方も居て親しく接している。	○ ・できるだけホームの外の物や人に接していく時間を多く持てるよう努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・納涼祭にお呼ばれしたり、地区の運動会見学に行ったりして地域との交流ができているが、もっと関わりを持っていく必要があると思う。	○ ・気軽に接して行くことが出来るように取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域ケア会議等に参加し、状況の報告や地区の老人会長さん等にボランティアの依頼や交流を促している。	○	・運営推進会議で、テーマにして地区の方々との意見を聞いたりしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・前年度の評価の改善の取り組みや自己評価を社内研修とした。	○	・自己評価を社内研修にすることによって本当の意味でのグループとはどんな環境なのかわかったスタッフがいてとても良かった。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では、活発な意見が出てとても参考になっている。 ・行政や地域の方がより身近な存在になった。	○	・町内のボランティア活動グループを紹介していただいた。 ・今後の行事等に活動していただけるよう取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・地域密着型サービスに移行して、行政との関わりが一層深くなり良くなったと思う。	○	・行政の方の意見やアドバイスを参考にして取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・パンフレットの掲示をしたり、地域包括支援センターの職員の方々と情報支援をする機会がある。（管理者のみで行っている）	○	・スタッフ全員が理解できるように勉強会等の場を持っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待もいろいろあることをケア中や勉強会で話している。 (話し方等もくれぐれも注意する様に常に話している)	○	・言葉かけ等、その都度お互いに注意し合う様にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・説明、ご納得の上で同意印を頂き随時不明点は尋ねられる様に配慮している。 ・理解できない部分等、地域包括支援センターの協力やアドバイスをもらっている。	○ ・当ホームでの対応可能な時期の事や受診の件、入院の際の居室の確保期間等については十分理解していただけるよう説明している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ゆっくりお茶をのんだりして、信頼関係づくりに努めている。	○ ・何でも言える、聞けるような関わり方や家族との交流の場を多く持っていける様に取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・面会時に報告したり、家族の遠距離の方には電話を入れたりしている。	○ ・ホーム便りの回数を増やしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時には利用者と一緒に話をしたりゆっくりくつろぐ時間をつくっている。	○ ・不満、苦情が表せる様な信頼関係づくりに努めている。 ・家族からの意見や不満に対しては職員会議で計らったりして家族に納得いく様説明している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・良い意見等は取り上げて実践に向けての努力はしている。	○ ・個人的意見を聞いたりするような時間的ゆとりを持てるよう努力していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・数少ない人数の中で何とかとりくめている。	○ ・ゆとりあるケアが出来るように人員の確保につとめたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・半年毎にはスタッフのストレスや人間関係を考慮して異動を行っているが、不安等のないように、随時ユニットの行き来を行っている。	○	・職員が固定化できるようにスタッフ同士の人間関係づくりに努力していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・できるだけ勤務の都合をつけ、交代で研修や、勉強会に出席するようにしている。	○	・ゆくゆくは常勤者だけでなく、パートの人達にも出席してもらえるようにしていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・役場が中に入り、地域のG・Hもちまわりで、交流会（勉強会）をしている。	○	・勤務の都合上全員が一緒にというわけにはいかないで、交代でもみんなが出席できるようにしていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・定期的に職員同士の交流の場や懇親の場を設けたいがなかなかできないでいる。	○	・月に1度ぐらいユニット別に食事会や、飲み会、ボーリングなどの場を持ちたい。（今は年に3回程度）
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・ホームまでなかなか行けないので、信頼関係が足りなかったり、把握しきれしていない事もあるかと思いますが、日々の勤務や介護状況をみればその努力は見えてきます。スタッフの頑張りには頭が下がります。	○	・職員との信頼関係を密にしていきたいためにも、もっと交流の場をふやしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・十分にホームのことを理解していただいた上で入居できるようにコミュニケーションを図っている。	○ ・困っていること、不安、求めている事を気付けるよう努力している。入居前に利用していた事業所のケアマネさんに聞くこともある。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ひたすら傾聴を心がけている。 ・御家族や御本人にも入居に至るまでは納得のいくまで話を聞いてもらったり見学してもらったりしている。	○ ・家族の大変さを話すことにより、気楽になれるように聞き役になっている。 ・相手の気持ちをうけとめるよう努力している。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・グループホームでの生活に適している状況なのか、デイサービスでも十分に対応できるのではないかの判断をしている。	○ ・地域包括支援センター等との情報交換を行っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居後、しばらくは時間をつくって面会に来ていただくよう家族にお願いしている。 ・仲良し友達づくりの支援を行っている。 ・関わっていたケアマネさん達に来てもらったりしている。	○ ・ホームの雰囲気になじめるような環境づくりにとめたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・その方の活躍できる場面づくりをおこなっている。（調理の仕方や物のつくり方等）	○ ・今後も人生の大先輩として尊厳していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・預けたのだから・・・と、あまり協力を得られない場合もある。	○	・ホームでの生活の様子を家族に知らせ、情報の共有をできるよう取り組みたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・状況を見て外出する機会等をつくっている。	○	・行事への参加等の働きかけを行っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人＝当方から出向くことはない ・馴染みの場＝近隣の散歩はするが、生活しておられた場所にも出向いていきたい。	○	・ドライブや買い物をする機会を増やし、社会参加への支援も図っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・それぞれのやりたいことも趣味も多種であり全員をひとつのことに取り組むことはなかなか困難であり、単独で行動している人もある。	○	・他者との関わりを好まない者もおおり、単独で行動される方に対し、声かけの工夫、内容の充実を図りたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・大切にしたいと思うが、現入居者に重点があり、退居後にも継続的に関わりを持つのは困難である。	○	・退居された家族等にも気軽に来れるようにしていきたい。 ・退居された後の様子等は電話して伺っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・自ら意思決定、希望を語る方は少ない。訴えない事が満足できていることであるとは思えないがもう少しスタッフ側が洞察力を養う必要がある。	○ ・言動や行動から、その方の思いを推測できるように努力したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・個別に介護記録があり、スタッフはいつでもそれに目を通すことが出来る様になっている。情報は共有化している。	○ ・その方のさりげない言葉の中から出てくるライフスタイル等をキャッチできるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・入浴に、レク活動、バイタルサインのチェック、食事等スタッフと入居者が関わりを持つ機会はかなり多く、又、深く保てていると思われる。	○ ・悩みや心配はないのか、本人に伺ったりしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・スタッフ間との話し合い、問題点の把握従来の計画に対し共有しており、新たなニーズが発生した場合にも、御家族や御本人に相談し計画を作成している。	○ ・ニーズの把握、ケアプランが実施されているか否かは毎日確認できる様チェック表が備えてある。今後も、情報共有の点からも継続実施していきたい。より良い物が出来る様検討していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・定期的に見直し、担当者会議を行っている。 ・実施不可能なこと、これを実施する為にどう対処するか検討しているが、対応出来ない機能低下等が生じた場合は医療機関への相談をする場合がある。	○ ・状況変化時には家族に連絡したり、専門機関に相談したり、行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・それぞれの勤務に合わせ申し送り、引継ぎも充実し、又、スタッフ間の連絡簿も備えているが記録に対しては簡素化されてしまう場合もあり記録に十分な時間がなかなかとりにくい。		・業務の流れから考慮すると記録にはあまり時間をとれていない。 又、記録のあり方等、勉強会を実施していきたい。（本年度の目標として記録の仕方を考えている）
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・グループホームでのケアの限界の見極めを行い、適切な施設や医療機関への相談を家族と行っている。		・方向性について本人、家族の要望を大切にしてい、支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・コーラスグループ、三味線等のボランティアが受けられるが、除草作業や花壇の整備等、ご家族より協力が得られると良いが実施できていない。	○	・新聞発刊時に声かけ文を挿入してはいかがなものか、又、発刊回数も増やしていきたい。 ・推進会議での声かけやお願いをする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・他ホームへの訪問を行っている。（9月敬老の日） ・協力医療機関の納涼祭（7月末）	○	・もっと他のホームとの交流の機会等を増やしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・成年後見制度の必要と思われる方等は地域包括支援センター等に情報提供を行っている。		・地域包括支援センターとの情報交換の機会がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・受診時に経過報告書を作成している。 ・必要に応じ、血圧や体重、体温等のチェック表等を添付している。 ・状態変化により受診に同行することもある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も医療機関や家族との連携を図り安心して生活できる様に支援していきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・各個人が受診の際、ケースワーカーに相談をしている。直接医師には相談はなく確保は出来ていないが、かかりつけの専門医はある。（ケースワーカーを通じて医師に相談している） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化していく認知症のケアのあり方は精神的、肉体的にもかなりの労働になってきており、容易に相談できる専門医があると望ましく検討したい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの約半数が看護職経験者であり、容易に情報は得られている。しかし、認知症に対しては知識が不十分な点もある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師としての経験をグループホームで生かせるように認知症についての勉強をより深く学ぶことが出来るように研修等に参加させたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を共有化し、今後の見通し、治療方針等を聞いている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・面会を度々行い、病院側へ経過を伺う。 ・ソーシャルワーカーとの連携を図っている。 ・家族にも状況を伺うようにしている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化に伴い、その経過をよく見極め、御家族に混乱の無いよう、比較的早くより見通しを話し合っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面会の少ない御家族には、どう対処していくとよいか。 ・話し合う機会の少ない御家族ともう少し密に出来るように計らっていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・今後予期出来ることや非常事態について、計画作成等や勉強会等でどうケアしていくか、どう対処するかは比較的、周知していると思われる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医との話し合い、勉強会等深く専門的知識の充実したものを、急変時に対応していただける医療機関がすぐ近くにあると良いかと思う。 ・終末期ケアについての研修会等に参加したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や、家族や地域包括支援センターとの連携を図りながら行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本人にとってなじみのあり方をしっかり把握して、利用者が安心して移り住めるよう努力し、生活不安のないように情報提供等もおこなっている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄失敗等があっても本人が気落ちしないよう優しく声かけて更衣したりしている。 ・入浴時できるだけ裸身がかさならないように配慮している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ使用中、ドアを開けたまま介助をおこなってしまう時があるので注意している。 ・利用者の方を尊厳して接していくよう理念にも掲げている。勉強会の折にも話し合っている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その方に合った問い掛けをして、本人の言葉や行動を見聞きしてケアに努めている。 ・自己選択できる場面は設けている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・残存機能を自信をもって表出していただけるよう支援し、依存的傾向にならないケアを行っていきたい。 ・本人の可能性を重視していきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ押し付けがないようにはしているが、時として強要していることもある。（体操・レクリエーション・入浴など） 		<ul style="list-style-type: none"> ・時間と気持ちのゆとりを持って本人の意思の尊厳をしながら支援していきたい。 ・無理強いしないようにスタッフへの指導を行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は美容師さんをホームにカット依頼していたが、家族との外出支援を考慮して現在は好きな理美容院や家族の方が訪問して散髪したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も家族と一緒に出かけられるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の準備や片付けを入居者と一緒に行っている。 ・自分の役割として、下膳や食器洗浄をして下さる方もいる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでおやつを作る行事が月に1回でもできるように検討していきたい。 ・野菜の選別や切り方等はよく手伝ってもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お酒、たばこを好む人がいない。 ・飲み物、おやつは毎日提供している。 ・自分で選択する場合は時々つくっている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・季節にあったおやつを取り入れて、本人の好みにも合わせていきたい。 ・何が食べたい？と聞くようにはしている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に声掛けをしたり、しぐさにより観察しており、排泄チェック表を記録、把握できるようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけパッドに頼らずにトイレで排泄していくように心掛けており、できるだけ布パンツで過ごせるように支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・2日に1回入浴の機会がある。 ・無理強いはいらない。 ・声掛けのタイミングは考慮している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴剤等を使用して、気分転換が図れるように工夫していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に応じて行っている。 ・安心して休むことが出来るように日中にコミュニケーションを図っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体調や希望により午後に居室にて1時間位休んでいただく方もいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に役割があり、毎日気分よくやったださる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の役割を長く続けていける様に支援していく。 ・終えた後は必ず「ありがとう」とお礼を言うようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ホームで預っている方は数名いるが、殆どの方は所持金はなし。 ・買い物事にはスタッフで支払いをしたり、小銭使用の時は本人が支払われることもある。	○	・時々、介護や飲食に対し「いくらあげたらいいですか」と言われる方もおられるので、少しでも所持してもらったら良いのかと思うことがあるので利用者や家族の納得の上で検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気や体調、本人の希望も聞き散歩を行ったり、ドライブに出かけたりしている。	○	・現スタッフでは一人ひとりの希望にそっての外出は難しいので家族や地域のボランティアなどに協力してもらって実行できるよう検討していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・園外ドライブや外食をスタッフと同行で年に数回行っている。		・週2～3回家族がドライブや生家の墓参り等に出かけられる方があり親子の絆の維持や気分転換が図られている。 ・外出、外泊の支援は行っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望がある時は電話をかける事はあるが、手紙はなかなか書かれない。	○	・殆どの方が電話で済ませているので、レクレーションの時間を利用して家族にでも手紙が出せるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・同じ地区の方や知人が時々尋ねてこられることもある、その際は、家族に訪問があった旨つたえている。		・いつでも尋ねて来れるような雰囲気づくりや言葉かけを行っている。 ・2～3日毎に訪問して下さる家族もある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ベット臥床時、ベットを降りる方に柵を2本を使用している方がおられるが転倒防止の為ご家族の了解の上使用している。 ・出入口のカギは開錠している。		・玄関に感知センサーを設置しているので鳴ったらすぐに確認をする。 ・身体拘束のないケアに取り組んでいる。 ・言葉かけや接し方も気をつけてケアしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・いつも開錠しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		・職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、これからも、鍵をかけないことを取組んでいきたい。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・確認している。 ・利用者の所在等、その都度確認し合っている。		・日中は殆んどフロアで過ごしていただき、居室でおられる時は声掛けにいたり、ゆっくり話を聞いたりする。 ・ホールを空にすることのない様に常に気をつけている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・危険物等は目に触れないように高い所にカーテンをつけて保管しているが、洗剤等はすぐに使うことができるようにしている。		・利用者の状況に応じて、保管したりしている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・スタッフが各入居者の機能状況を把握しており、危険をいち早く察知できていると思われ、必要時には側近見守りを行っている。 ・投薬には充分注意を払い服薬までには3人程がそれぞれ確認している結果がある。		・各個人のADL状況の把握をする。 ・行動パターンの把握。 ・洞察力を養う。 ・食事形態の工夫を行っており、ヒヤリハットの活用をしている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・実践している。 ・フローチャートを作成している。又、看護師にいつでも連絡がとれる体制をしている。	○	・年1回は専門家による応急手当、蘇生法の研修を予定している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署の方に来てもらい、1年に1回避難訓練を入居者と行っている。	○	・火災報知器の使い方や誘導等の仕方を訓練している。 ・年2回は自衛避難訓練を行う予定にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・移動時の側近見守り、手引き歩行、必要に応じて車椅子使用。 ・夜間、居室にての見守り困難な方はフロア等で見守りをする事を説明している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・家族に説明し同意を得て協力をしてもらっている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・1日2回～5回のバイタルチェックをし、体調不良の早期発見につなげている。 ・急変時の連絡網を作っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・異常時には早期に対応できるように管理している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・異変があった時に処方箋を見たり、薬の本を見たり医師に相談している。 ・個人処方箋ファイルは作っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・薬をセットする時にもう一度処方箋を見て副作用について理解していきたい。 ・投薬時には必ず氏名の確認を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の補給や野菜をたくさん使ったメニューでの食事や下剤を服用して調整している。 ・午前中に散歩したり、体操したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日排泄管理を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアをして、2日に1回は、夜ポリデントにつけて消毒している。 ・出来る限り本人にみがいてもらい、不足時は介助する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの重要性や肺炎予防に注意している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ残しがある時は声かけし、なるべく食べて頂けるよう気をつけている。 ・排泄量の少ない人には水分量と排泄チェックをして一日量を見ている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の摂取量のチェックを記録している。 ・定期的に専門家によるアドバイス等が必要かと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に対するマニュアルの作成をしている。 ・感染時には適切な処置や消毒を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパータオルにより感染予防に努めている。 ・ケア時には必ず手指の消毒を行っている。 ・感染症対策委員会の設置をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食器、器具など75℃のお湯に15分位つけたあと乾燥している。 ・1週間に2～3回の買い物でなるべく新鮮な食材を使っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・買った食材は、使う用途に合わせて、冷凍や冷蔵庫で保存している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の花や野菜を作っている。 ・玄関は開放している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・趣味の花が植えてあったり、イスに腰掛けてゆっくり出来るスペースがある。 ・季節の野菜が植えてあり収穫を楽しみにしておられる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節のかざり物をホール、廊下に貼って季節感を感じて頂いている。 ・ぬり絵、貼り絵を楽しんでもらっている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日除け等を利用して朝日、夕日の日差しが当たらないようにしたい。 ・季節の飾りは、今まで通り続けて利用者と共に作っていきたい。 ・利用者と職員の作品展示会をしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂と居間がつづきになっているので好きな所でゆっくりくつろいで頂いています。 		<ul style="list-style-type: none"> ・希望に応じてゆっくり音楽を聴いたり、ベランダでゆっくり外気浴をしながら、野や山を眺めたりできている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>・使い慣れたタンスやぬいぐるみ等を持って来て いる。</p>		<p>・家族の写真を持って来られたり、入居者の似顔 絵が貼ってあったりして居心地の良い環境への配 慮をしている。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>・汚物やトイレそうじをこまめにしている。 ・冷暖房の温度調節には注意している。</p>		<p>・トイレには脱臭剤等をおいている ・発汗や冷えない様に衣類や膝掛け、マフラー 等で注意している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>・車椅子などきれいに片付けて歩行が出来る様に している。 ・手すりの活用等をしていただいている。</p>	○	<p>・玄関先や風呂場等の安全について検討している 状況です。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>	<p>・目印や表示をしたりして混乱を防ぐようにして いる。</p>		<p>・照明等にも配慮している。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>	<p>・ベランダに出て歌をうたったり体操をしたりし ている。 ・花や野菜を植えたり出来るスペースが確保でき ている。</p>		<p>・ベランダでおやつを食べたり、歌や体操をする スペースがある。 ・中庭も広く、日向ぼっこなど出来て気分転換が 図れる。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今ある空間が、心地よく心穏やかに過ごして頂ける様、今迄のご家族と共に暮らして来られた雰囲気少しでも近づくことが出来れば、と思う。
またスタッフ同士の信頼感、スタッフと入居者間の信頼感が築いていける様、勉強会、食事会、ミーティングを多く設けている。